洞爺湖有珠山ジオパーク再認定審査
7月24日～27日に決定！

洞爺湖有珠山ジオパークの世界認定再審査が、7月24日～27日の4日間の日程で実施されます。

再審査は、世界ジオパークに加盟登録する地域に4年に1度義務づけられており、平成21年（2009年）に国内第1号の世界ジオパークとなった当地では初めての審査となります。

審査員は、ユネスコの世界ジオパークネットワーク担当部局から指名を受けたニコラス・ゾウロス氏（ギリシャ）とホセ・ブリルハ氏（ポルトガル）の2名。

4年前の認定審査の際は、有珠山周辺地域の地形や地質など学術的な要素に審査の力点が置かれていましたが、今回は、地域住民の皆さんへのジオパークの浸透や、ガイド活動の充実、観光振興への波及効果なども重要な視点となっています。

洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会（事務局・洞爺湖町）では、4年前に指摘された、①パンフレットや案内看板などの多言語化、②学術的・専門的に偏らない平易な解説表現、③ガイド団体の組織的な研修・養成などの7項目についての改善点を示したうえで、この4年間に実施してきたボランティア団体によるサイト保全活動などの様々な取組みを説明し、当地域内におけるジオパーク活動の広がりをPRしていきます。

期間中は、2000年噴火災害遺構や昭和新山、洞爺湖などの火山関連サイトのほか、縄文遺跡群や噴火湾周辺の歴史文化、さらには、エリア内のガイドや火山マイスターの活動についても審査が行われる予定です。

過去には、世界認定を取り消された地域もあるほど厳しい審査が行われますが、この再審査をきっかけに、「巡る」「学ぶ」「食べる」をキーワードとした新しい地域の魅力『ジオパーク』を見つめ直し、さらに磨きをかけていきたいと考えています。

北海道下水道協会研修会
○排湯熱の有効利用の実践を学ぶ

第2回北海道地方下水道協会（会長・上田文雄札幌市長）の定期総会と研修会が5月23日、24日の両日町内のホテルで開かれました。

24日に開かれた研修会では、全道の各市町村の水道職員や民間事業者ら約60人が参加。湯熱を利用したヒートポンプシステムについて学びました。

ヒートポンプシステムの実践例を学ぶ水道関係者

洞爺湖温泉利用組合の四宮博専務理事が「排湯熱利用ヒートポンプシステムの実績と課題」と題して講演。ヒートポンプを注目した経緯についてや洞爺湖温泉での実践例と課題について説明しました。

ヒートポンプは、①自然エネルギーを使う②二酸化炭素排出削減にも大きく貢献③低ランニングコストであることをあげ、だれでも取組める実現性の高さを強調しました。

最後に、「日々のデータ観測と解析によって、資源の有効利用の再検証の作業が最も重要で、同時にそれを管理する人材の育成にも力を尽くさなければならない」とこれからの課題を提起しました。

講演後、参加者らは同組合に移動し、ヒートポンプシステム施設を見学しました。